

I-JAS に見られる推量副詞の使用

—「たぶん」「おそらく」を例にして—

イレーナ・スルダノヴィッチ (ユライ・ドブリラ大学プーラ)
isrdanovic@unipu.hr

1. はじめに

日本語における副詞は、名詞や動詞と比較すると数の少ない品詞でありながら、発話の意味内容を精緻化し、話し手の態度や判断を直接的に表現する重要な役割を担っている。特に推量副詞は、文末モダリティ形式と密接に結びつきながら発話の確信度や推測の程度を調整する機能を持ち (工藤 2000)、談話の性質や文体の特徴を反映する要素としても注目されてきた (スルダノヴィッチら 2008、2009、ホドシュチェクら 2009)。

本研究では、日本語学習者コーパスに見られる推量副詞の使用傾向を明らかにするため、「たぶん」と「おそらく」を例に取り、多言語母語の日本語学習者横断コーパス I-JAS における使用実態を分析するとともに、日本語母語話者の複数のコーパス (NINJAL コーパス群) との比較を行う。その際、学習者による使用が過少または過剰になっていないかという点に加え、母語別の違い、タスク別の違い、日本語能力レベル別の違いについて検討することを目的とする。

2. 研究背景

副詞はしばしば周縁的な品詞として扱われることがあるが、その役割は決して限定的ではない。石黒 (2023) は、副詞が「書き手の気持ちを最もストレートに伝える要素」の一つであり、その選択の適否が読み手の理解や評価に大きな影響を与えることを指摘している。また、副詞は他の語類を修飾することで意味を詳細化し、談話の流れを調整する機能を持つことから、コミュニケーションにおいて重要な役割を果たす。

日本語の副詞は従来、程度副詞、情態副詞、陳述副詞などに分類されてきた (山田 1936)。本研究で扱う「たぶん」と「おそらく」は陳述副詞に属し、話し手の主観的判断や推測を表す機能を持つ。

推量副詞と文末モダリティ形式の関係については、南 (1974) および工藤 (2000) によって強い共起関係が指摘されており、それぞれの副詞が特定のモダリティタイプと結びつく傾向があることが明らかにされている。例えば、推測 (EXP) のモダリティタイプには「だろう」「と思う」などが含まれ、推量副詞はこれらの形式と共起することで発話の確信度を調整する役割を果たす。

さらに、推量副詞の使用は単なる文法的現象にとどまらず、テキストのジャンルやレジスターの特徴を示す指標としても機能することが指摘されている (スルダノヴィッチほか 2008, 2009)。

3. 研究方法

本研究では、日本語学習者による推量副詞の使用傾向を明らかにするため、多言語母語の日本語学習者横断コーパス I-JAS (迫田ほか 2016) を主な分析対象として用いた。また、日本語母語話者の使

用傾向との比較を行うため、国立国語研究所が整備した複数の日本語コーパスを参照した。その詳細については Srdanovic (2024) を参照されたい。

コーパス間では語彙総数が異なるため、頻度比較にあたっては PMW (per million words) による正規化頻度を用いた。この方法により、異なる規模のコーパス間でも使用頻度を比較することが可能となる。

分析対象とした推量副詞は「たぶん」と「おそらく」であり、それぞれについて学習者と母語話者の使用頻度を比較するとともに、母語別分布、タスク別分布、日本語能力レベル別分布の観点から検討を行った。

4. コーパスにおける推量副詞の分布

復習の日本語コーパスを通して見ると、「たぶん」「ぜったい」「どうも」「かならず」「きっと」「おそらく」といった推量副詞が比較的広く出現する一方で、「もしかすれば」「ことによれば」「ことによると」「ひょっとする」などの副詞は出現頻度が低いことが確認されている (図1)。

また、推量副詞は話し言葉コーパスにおいて特に高頻度で出現する傾向があり、この結果は副詞が対人的コミュニケーションにおいて重要な役割を果たしていることと一致している。一方で、「おそらく」「かならずしも」「どうやら」などの副詞は書き言葉やフォーマルな話し言葉においてより頻繁に現れる傾向があることが指摘されている。

本研究の BCCWJ の分析において、「たぶん」はブログや知恵袋などの非公式テキストに多く出現し、「おそらく」は国会議事録や書籍、教科書などの形式的なテキストに多く出現する傾向が確認された。このようなレジスターによる使用差は、前坊 (2012) の指摘とも一致する結果となった。

WPMの合計	コーパス	副詞	コーパス別											合計	平均
			BCCWJ	CEJC	CHJ	C-JAS	COJADS	CSJ	CWPC	I-JAS	NUCC	SHC	SSC		
EXP	たぶん	75	1195	18	1465	10	222	465	2303	878	49	79	6759	614	
NEC	ぜったい	62	386	20	448	50	100	273	71	469	77	117	2073	188	
CON	どうも	53	112	89	15	281	107	407	51	107	74	484	1778	162	
NEC	かならず	107	74	289	159	133	130	139	48	77	121	106	1382	126	
NEC/EXP	きっと	73	205	61	22	36	99	107	37	259	51	114	1063	97	
EXP	おそらく	75	16	63	0	41	63	59	6	17	113	108	561	51	
EXP	たいてい	30	17	70	7	89	17	32	31	18	37	81	431	39	
NEC	ぜったいに	52	26	12	26	28	31	21	14	49	64	42	366	33	
CON	よっぽど・よほど	23	27	74	22	49	9	16	1	44	36	55	355	32	
NEC	かならずしも	35	2	80	0	3	37	11	0.3	8	51	38	266	24	
POSS	もしかしたら	16	50	1	7	0	32	37	13	41	8	4	209	19	
NEC/EXP	たいがい	4	3	23	0	57	10	16	0	16	8	68	205	19	
POSS	あんがい	9	14	8	0	9	4	11	1	27	18	47	149	14	
CON	どうやら	27.4	2.5	13.6	0	9.0	9.1	0	1.2	13.2	29.0	13.2	118	11	
EXP	おおかた	2.2	0.8	30.5	0	9.0	2.2	0	0	0	2.6	1.9	49	4.5	
POSS	もしかすると	6.1	4.1	0.5	0	0	5.8	16.1	0.3	3.5	4.9	0	41	3.8	
EXP	さぞ	3.8	0	24.4	0	4.9	0	0	0	0	7.3	0	40	3.7	
POSS	ひょっとしたら	5.2	2.9	0.2	0	2.5	8.6	10.7	0	4.4	3.9	0	38	3.5	
POSS	ひょっとすると	3.5	0.4	0.5	0	3.3	1.8	0	0	0	3.1	0	13	1.2	
POSS	ことによると	1.3	0	1.3	0	0	0.8	0	0	0	2.0	0	5.4	0.5	
POSS	ことによれば	0.1	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.3	0.0	
POSS	もしかすれば	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.2	0.0	
	合計	665	2137	879	2171	814	889	1621	2578	2031	760	1358	15903	1446	

図1 複数のコーパスにおける推量副詞分布

5. 学習者コーパスにおける使用傾向

I-JAS における分析の結果、「たぶん」は学習者コーパスにおいて過剰に使用されている一方で、「おそらく」はほとんど使用されていないことが明らかになった (図2, 図3)。このような傾向は、日本語母語話者コーパスにおける分布とは大きく異なっている。

この背景として、「たぶん」が他の意味の近い副詞よりも早い段階で学習される語彙であることが挙げられる。また、学習者コーパスには比較的非公式な言語使用場面が多く含まれている可能性も指摘されている。さらに、学習者が自身の言語能力に対する不確実性を補うためのコミュニケーションストラテジーとして推量副詞を使用している可能性も考えられる。

一方で、「おそらく」は日本語教科書において十分に扱われていない可能性があり、そのことが使用頻度の低さに影響している可能性が示唆される。

5.1 母語別の違い

I-JAS の分析では、学習者の母語によって推量副詞の使用傾向に差が見られることが確認された。特にハンガリー語話者においては「たぶん」の使用頻度が高く、これは母語における対応表現との類似性による転移の可能性を示唆している。例えば、「たぶん」はハンガリー語の *talán* などの対応表現の影響を受けて使用されている可能性が指摘されている。一方、「おそらく」についてはフランス語話者を除いてほとんど使用されておらず、多くの学習者にとって十分に習得されていない語彙であることが示唆された。

5.2 タスク別の違い

I-JAS に含まれる複数のタスクの比較から、推量副詞の使用頻度にはタスクによる差が見られることが明らかになった。特に対話タスクでは「たぶん」「おそらく」ともに比較的高頻度で使用されている傾向が確認された。また、語数を考慮すると図描写課題において「たぶん」の使用が目立つことが指摘されている。

さらに、書き言葉やフォーマルな場面においても「たぶん」が母語話者より過剰に使用されている傾向が見られることから、文体に応じた副詞の使い分けが十分に行われていない可能性が示唆される。

	D 絵描写		I 対話		RP1 ロールプレイ		RP2 ロールプレイ		ST1 ストーリーテリング		ST2 ストーリーテリング		SW1 ストーリーライティング		SW2 ストーリーライティング		合計
インドネシア語	27	4%	137	3%	13	4%	14	3%	2	9%			1	33%	1	8%	3%
スペイン語	55	7%	237	5%	34	10%	52	11%			4	6%			1	8%	6%
タイ語			151	3%	4	1%	11	2%			1	1%					2%
ドイツ語			293	6%	55	17%	41	9%	1	4%	2	3%			2	16%	6%
トルコ語			182	4%	4	1%	10	2%	1	4%	1	1%					3%
ハンガリー語	189	25%	495	10%	34	10%	35	8%	5	21%	15	21%			1	8%	11%
フランス語	52	7%	321	6%	28	9%	35	8%	1	4%	3	4%					6%
ベトナム語	22	3%	174	3%	11	3%	20	4%									3%
ロシア語			122	2%	10	3%	21	5%	2	9%	4	6%					2%
中国語(中国D有)	23	3%	177	3%	4	1%	13	3%	2	9%	5	7%					3%
中国語(中国D無)			245	5%	9	3%	8	2%									4%
中国語(台湾)	86	12%	392,5	8%	21	6%	31	7%	0,5	2%	7	10%	0,5	17%	1,5	12%	8%*
国内教室環境	95	13%	390	8%	28	8%	39	8%	4	17%	6	8%	0,5	17%	1	8%	8%*
国内自然習得	82	11%	409	8%	10	3%	28	6%	1	4%	15	21%			1	8%	8%
日本語母語話者	14	2%	359	7%	6	2%	16	3%									6%
英語(D有)	30	4%	415	8%	29	9%	37	8%	2	9%	3	4%			1	8%	8%
英語(D無)			437	8%	13	4%	28	6%			2	3%	1	33%			7%
韓国語	68	9%	221,5	4%	14	4%	22	5%	2	9%	3	4%	0,5	17%	3	24%	5%
合計	742	11%	5158	76%	326	5%	461	7%	24	0%	71	1%	3	0%	12,5	0%	100%*
総合数%		5%		74%		7%		7%		2%		2%		1%		2%	

図2 I-JASにおける「たぶん」の使い分け

	D 絵描写	I 対話	RP1 ロール プレイ	RP2 ロール プレイ	ST2 ストー リティ	SW2 ストーリ ライティング	総合		
ハンガリー語							1	1	2%
フランス語	5	7			2		14	26%	
ベトナム語					3		3	6%	
中国語(中国D有)				2			2	4%	
中国語(台湾)							1	2%	
日本語母語話者	7	20	3	2	1		33	61%	
総合(おそらく)	12	27	3	9	1		54	100%	
正規化頻度	3,65	0,56	0,69	1,92	0,65		1,94	0,82	
総合数(コーパス)	328778	4842205	432478	469541	153626		103166	6567252	
総合数(コーパス)	5%	74%	7%	7%	2%		2%		

図3 I-JASにおける「おそらく」の使い分け

5.3 タスク別の違い

J-CATによる7レベル分け(砂川 2023)を参考にし、「たぶん」と「おそらく」の使用を日本語能力レベル別で分析した。「たぶん」が初級から上級まで広く使用されているが、特に初級後半および中級前半の使用率は目立つ(図)。それに対し、「おそらく」は初級段階だけでなく中級後半から上級段階に至るまでほとんど使用されていないことが確認された。この結果は、「おそらく」が語彙として提示されていたとしても、実際の運用能力としては十分に定着していない可能性を示している。

たぶん			おそらく		
7レベル	頻度	%	7レベル	頻度	%
上級	125	2%			
上級前半	358	4%			
中級後半	578	7%			
中級	790	10%	中級	2	4%
中級前半	2288	28%	中級前半	3	6%
初級後半	2622	32%	初級後半	16	30%
初級	1075	13%			
日本語母語話者	395	5%	日本語母語話者	33	61%
総合	8231	100%	総合	54	100%

図4 7レベルごとの使い分け

6. まとめ

本研究では、日本語学習者コーパス I-JAS における推量副詞「たぶん」と「おそらく」の使用傾向を分析し、日本語母語話者コーパスとの比較を通してその特徴を明らかにした。その結果、学習者は「たぶん」を過剰に使用する一方で、「おそらく」をほとんど使用していないことが確認され、さらに母語、タスク、日本語能力レベルといった要因によって使用傾向に差が見られることが明らかになった。

また、日本語母語話者が文体や状況に応じて両者を使い分けているのに対し、学習者ではそのような語用論的な使い分けが十分に発達していないことが示唆された。したがって、日本語学習者のコミュニケーション能力を高めるためには、推量副詞を体系的に扱う指導が必要であると考えられる。

今後の課題としては、副詞の機能的な使用や文末モダリティ形式との共起関係の分析をさらに進めるとともに、日本語能力レベルごとの正規化頻度の詳細な検討を行うことが挙げられる。

謝辞

本研究は、国際交流基金による日本研究フェローシッププログラム助成金（番号：10148587）の支援を受けた。また、本研究成果は、国立国語研究所の機関拠点型基幹研究プロジェクト「学習者辞書用語彙資源の構築」（リーダー：柏野和佳子）、JSPS 科研費 23H00072（リーダー：松下達彦）、および、ユライ・ドブリラ大学プーラ人文学部アジア研究科の機関研究プロジェクト「日本語と社会：基本概念と実証分析（Japanski jezik i društvo: temeljni pojmovi i empirijska analiza）」（リーダー：Irena Srdanović）によるものです。

参考文献

- 石黒圭（2023）『コミュカは「副詞」で決まる』光文社。
- 工藤浩（2000）「副詞と文の陳述のタイプ」森山卓郎・仁田義雄・工藤浩編『日本語の文法3 モダリティ』岩波書店，161–234。
- 迫田久美子・小西円・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子（2016）「多言語母語の日本語学習者横断コーパス International Corpus of Japanese as a Second Language」『国語研プロジェクトレビュー』6（3），93–110。
- 砂川有里子（2023）「機能語的な副詞の習得—『児童・生徒作文コーパス』『I-JAS』『B-JAS』の比較—」【学習者コーパス（I-JAS）研究会】発表資料（2023年10月14日）。
- Srdanović, Irena (2024). Distribution of Suppositional Adverbs in Japanese Language Corpora: Using Skewer-Search System KOTONOHA. *Rasprave Instituta za hrvatski jezik*, 50 (2), 411-431. <https://doi.org/10.31724/rihjj.50.2.9>
- Srdanovic, Irena; Bekes, Andrej; Nishina, Kikuko (2008) Distant Collocations between Suppositional Adverbs and Clause-Final Modality Forms in Japanese Language Corpora. *LKR 2008, LNAI 4938* (Eds.T. Tokunaga and A. Ortega). Springer-Verlag Berlin Heidelberg, 252–266.
- スルダノヴィッチ・イレーナ・ベケシュ・アンドレイ・仁科喜久子（2009）「コーパスに基づいた語彙シラバス作成に向けて—推量的副詞と文末モダリティの共起を中心に—」『日本語教育』142，69–79。
- 前坊 香菜子（2012）「コーパスにおける「たぶん」「おそらく」の使用傾向の分析」『一橋日本語教育研究』1号，49–60。
- 南不二男（1974）『現代日本語の構造』大修館書店。
- 山田孝雄（1936）『日本文法学概論』宝文館。

関連 URL

- ・ コーパス検索アプリケーション『中納言』
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>
- ・ コーパス一覧（NINJAL）
<https://clrd.ninjal.ac.jp/index.html>
- ・ まとめて検索『KOTONOHA』
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/integrated/>
- ・ 多言語母語の日本語学習者横断コーパス『I-JAS』
<https://www2.ninjal.ac.jp/jll/lisaj/ijas-document-en.html>